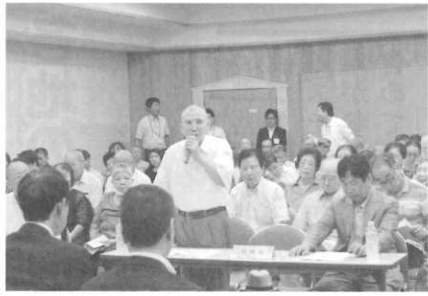


差別のない社会を 実現するために

対和歌山市交渉

対和歌山市交渉を8月29日、勤労者総合センターでひらき、各支部から100人をこえる同盟員が参加した。



有意義な交渉をとあいさつする
瀧口秀光・議長

午前中の全体会では、和歌山市ブロック連絡協議会の田中博之・事務局長の司会ですすめられ、最初にブロックを代表し瀧口秀光・議長から「各地域の要求がひとつでも達成できるように一日頑張っていたください」とあいさつがあった。つづいて、藤本哲史・執行委員長から「部落差別がある限り同和行政は必要という基本的な姿勢を確認し回答をいただきたい。また、市ではいち早くモニタリング事業を今年5月からスタートし、差別書き込みへの削除依頼がすすめられている。一日も早く部落差別がない社会をめざして、交渉をすすめてい」とした。つづいて、市を代表して市長選後2期目となった尾花正啓・市長から選挙のお礼をかねて「2期目を当選することができた。今後も皆さんとしっかり住みやすいまちづくりをめざし全力でと



尾花正啓市長

りくんでいく。また「推進法」が施行されたが、悪質極まりない差別書き込みがインターネット上で発生している。和歌山市では、教育・啓発をはじめモニタリング事業を実施し、相談体制の充実やさまざまな施策をすすめているが、今後も実態調査の実施を県とともに国に強く働きかけていく」とあいさつした。田中事務局長から、頻繁に災害が発生しているが、地域の拠点である隣保館は非常に大事な役割を担っているため、老朽化にともなう建替えをすすめてもらいたい」と市長に確認し、基本要件についてすすめられた。モニタリング事業がはじまったが、差別書き込みが蔓延している現状を市民に周知することも必要ではないか。周知方法を考え、工夫してもらいたいと要求した。一昨年「障害者差別解消法」が施行され、以前に同和地区の障がい者の実態調査が実施され、その後のとりくみについて回答を得たが、実際はなにもおこなうこととなった。



参加者に感謝とお礼をのべる
山本敏明・支部長

差別事件の関係で、子どもを取り巻く環境のなかで教育現場ではインターネットを使った学校の授業をすすめているが、ネットでもさまざまな情報を子どもたちが簡単に調べることができている状況であり、教育の大きなテーマとしてとりくんでもらいたいとの要求に、人権をふくめモラルなどもあわせて指導をおこなっているとの回答であった。国が

岡本さんをしのぶ会



岡本さん愛用のルーペなど

「岡本峯雄支部長を偲ぶ会」を4月22日、同和企業センターにおいて、荻原支部、県連、企業連協力のもととひらいた。藤本哲史・執行委員長、瀧口秀光・企業連理事長をはじめ、県内から多数の同盟員、行政、友人など約90人に参加していただいた。来賓の方々からありし日の「峯やん」の思い出をお話ししていただき、私たち支部員も改めて「峯やん」の解放運動に懸ける思いを知ることができた。私をはじめ「峯やん」と会ったのは、峯やんが若原の子ども会の会長をしている時であった。それから



岡本さんとの思い出をかたる
田上武・県実行委員会会長



「峯やん」への手紙を読まれた坂東憲生さん

40数年、荻原における波乱の解放運動を一緒に闘ってきた。まだ、志半ばの思いをもっていた無念さも感じている。まさに「屍を越えて」いかなければならない我々の運動の宿命を感じる一日になった。偲ぶ会の日も快晴であったが、峯やんが亡くなった2016年の4月22日も真つ青な空であった。あれから2年。少しでも前にすすめたか自問してみる。参加していただいたみなさま方には、お忙しいなか参加していただき感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(文責) 山本敏明・
荻原支部支部長

各支部で大会ひろく

●那賀支部の定期大会が8月24日、那賀総合センターでひらかれた。役員はつぎのとおり。
支部長 金田 光央

●岩橋支部の定期大会が8月28日、岩橋文化会館でひらかれた。役員はつぎのとおり。
支部長 福島 隆志

●岩出支部の定期大会が11月8日、ホテルいとうでひらかれた。役員はつぎのとおり。
支部長 岡田 敏晴

- 6/20 那賀支部女性部
- 6/22 新宮支部女性部
- 6/27 本渡支部女性部
- 6/29 古和支部女性部
- 9/22 杭ノ瀬支部青年部
- 10/19 杭ノ瀬支部女性部
- 11/7 荻原支部女性部
- 12/15 御坊支部女性部

北山誠一を偲んで

7

7回目の連載となるが、口の中澤猛らを中心に検討少し間があいてしまった。がすすめられた。

さて、1974年頃のこと。県連の迷走がつづき、下体育館に県内各部落か湯浅や杭ノ瀬支部などの正常化の動きにたいし、執行部は強引に第19回定期大会の開催を決めた。中央本部の指導も無視してのことであった。北山は、まさにその渦中に身をまわっていた。8月18日、白浜・坂田会館は緊張のなかにあった。その多くが北山の双肩にかかっていたといっても過言ではない。杭ノ瀬支部をはじめとするその動きは極めて精力的で、その動機は、再建の数年後の中澤敏浩(委員長)、するピケ隊で固められた。北山(副委員長)、中澤敏浩(書記)の体制が確立してか、た県連大会のでつち上げであった。そして(詳細は省くが)ピケ隊や執行部の妨害と暴力、挑発が繰り返され、およそ考えられない差別発言にも果敢に立ち向かい、大会を阻止したのであった。

その間、オルグ行動や網の目行動を展開し、県内の全部落に向いた。そして、数年にもおよぶとりくみの末に、やっと部落解放運動を大衆の手に取り戻すことに成功したが、課題が山積していた。とくに「再建大会の開催」「県連機関の構築」が急務であった。北山、杭ノ瀬の中澤敏浩、山

(次号で連載最終の予定)